

安心して心豊かに過ごせる場所を目指して

東成育成園
総括施設長 林 祥子

この度、東成総括施設長を拝命いたしました林祥子です。

本体事業の東成育成園と指定特定・指定一般の相談支援事業、また、今年度より改めて3か年の受託が決定いたしました東成区障がい者相談支援センターも含め、それぞれが私に課せられた役割になります。

東成育成園では本体事業の生活介護・就労継続支援B型ともに日々の取り組みや行事などにおいて、利用者の方々の毎日がより豊かになるよう、様々な工夫がなされています。細やかな配慮を盛り込んだ食事の提供方法や個々の特性を踏まえたコミュニケーションツールやアイテムの作成、季節ごとの行事など、これまで積み上げてきた成果が随所に感じられます。ただ、年限を設けない事業内容の中で、それらの取り組みがルーティーン化しつつあるようにも感じられます。《いつもと同じ》という安心感も大切ですが、《あっ！なんか違う！》という刺激も時には必要です。今年度の人事異動により、新規採用の支援員も含め3名が加わり、少しスタッフの顔ぶれが変わりました。その新しい目がスパイスとなって、互いに刺激し合える職員集団になればと思います。

相談支援事業においては区センターも含め、複雑多岐にわたる業務内容に相談員も翻弄される毎日ではありますが《困った時は育成園に電話するわ!》という声も多く聞かれるようになり、切れ目のない支援の必要性を強く感じております。支援を求めておられる方の気持ちが和らぎ、少しでも環境改善につながれるよう広い視野を持った相談員であるよう研鑽を重ねてまいります。

また、今年で28年目を迎える東成育成園ですが、やはり重ねた年月は設備にも大きな影響を及ぼしています。それらの修繕も今年度の大きな目標であります。ご不便をおかけする時期もあるかと思いますが、利用者の皆様に快適に過ごしていただけるような環境整備に向けて準備を進めてまいりたいと思います。

東成育成園が、利用者の皆様はじめ、関わる全ての方々の《安心して心豊かに過ごせる》場所であるよう

スタッフ一同、力を合わせて務めてまいりたいと存じますので、引き続きご指導・ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



港エリアの27年度の方向性について

港総括施設長
港育成園
管理者 角森 佐岐子

港エリアに赴任し、3度目の春が訪れました。

この間、エリア内の事業の見直しを行い、より必要なサービスを優先するために幾つかの事業を縮小・廃止しました。これまでサービスをお使いいただいた皆様にはご不便をかけることも有ったかとは存じますが、自分らしい暮らし方を考えていただくよい機会にもなったのではないかと考えています。

新しい活動としては、グループホームの利用者さんを中心に本人の会『絆会』ができました。行事を中心に活動しており、昨年9月に島根県で開催された育成会全国大会には9名が参加されました。全国の当事者活動に触れた絆会会員の皆様のお顔は、驚きと希望に満ちていて、「人生の主役はその人自身である」という支援の原点を再確認させてくれました。これからも、この思いを忘れずに法人理念である《障がいのある人が安心して心豊かに過ごせるように》支援に努めてまいります。

「施設は人」と昔から言われていますが、最近は福祉に従事する人が減っており、どこの事業所も人材確保に苦慮しています。幸い今年度は、港エリアに2人の新人職員を迎えることができました。ここ数年は職員採用がなかったこともあり、先輩職員は後輩に何をどのように伝えるべきか、自分に何を求められているのかを改めて考えさせられる機会が増えています。一人ひとりが自分の役割を認識し向上していける、よい職員集団になることを心から願っています。

今年度は、港育成園、港第二育成園の外壁塗装工事を予定しており、内装についても利用者の皆さんがより安全に快適に活動していただけるよう検討を進めてまいります。また、グループホームメープルではシ

